

流行状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 * レンサ球菌のうち血清型分類の A 群に分類されるものによる上気道感染症

定点当たりの報告数は 0.77 (前週 0.73) と **やや増加**

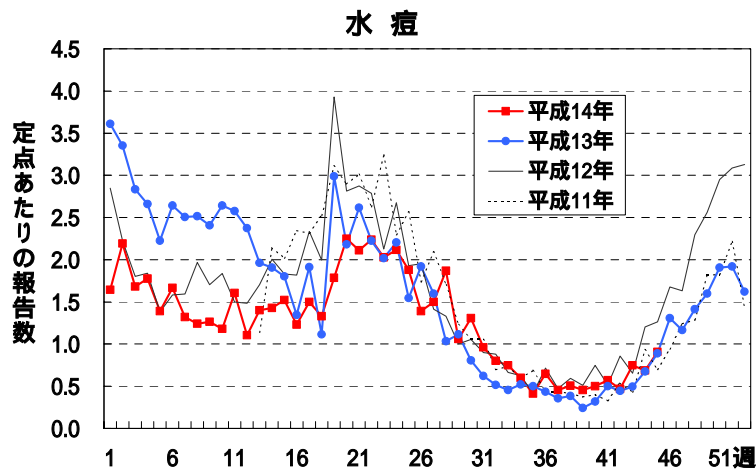
過去 3 年間の推移を見ると、**第 40 週前後から急増**する傾向があるため **注意が必要**

感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は 2.92 (前週 2.27) と **増加**

水痘 (みずぼうそう)

定点当たりの報告数は 0.91 (前週 0.69) と **増加**



マイコプラズマ肺炎 * マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎

基幹定点から **1 例** の患者報告あり。

4 定点 から **コメント** での患者発生報告あり。

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホ - ム ペ - ジ を ご 覧 ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌 O 1 1 歳男、1 歳女、7 歳女

病原性大腸菌 O 1 2 5 0 歳女、3 歳男

病原性大腸菌 O 1 3 2 歳男

カンピロバクター 1 歳男

小型球形ウイルス腸炎と思われる感冒症状を伴う胃腸炎が多発しています。

ロタウイルス腸炎も散見するようになりました。

高熱弛張し、筋痛を伴うインフルエンザもそろそろ増えてきました。

A 型が多いようです。又、クラミジア肺炎が散見されます。

(尾西市 城後小児科)

川崎病 1 歳、3 歳

(一宮市 平谷小児科)

感冒性腸炎増えてきました。

(一宮市 あさのこどもクリニック)

保育園での水痘及び手足口病が流行しています。

(稲沢市 医療法人野村整形外科)

嘔吐を伴う感染性胃腸炎が増加してきました。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

水痘、手足口病まだつづいています。

O 25、O 15 の大腸菌 VT (-) がありました。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

12 歳男、3 歳男、2 歳男 マイコプラズマ肺炎

(春日町 丹羽医院)

尾張東部地区

マイコプラズマ肺炎 (4 歳男、5 歳男 2 名、6 歳男、11 歳男) が、多くみられます。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

溶連菌感染症少し落ち着いたようです。

その他今週は目立った感染症はありませんでしたが、感冒の人が増えました。

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

9 歳男 マイコプラズマ肺炎

(南知多町 医療法人大岩医院)

今週は寒さのせいか感冒が増えました。又喘息発作も多くなりました。

(春日井市 かちがわ北病院)

今週はめだったものありませんでした。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

手足口病小流行しています。

(小牧市 小牧市民病院)

嘔吐下痢症が急増しました。乳幼児施設内で集団発生あり。

(小牧市 志水こどもクリニック)

西三河地区

病原性大腸菌 O18 O1 4ヵ月男
病原性大腸菌 O25 1歳男
病原性大腸菌 O15 2歳男
サルモネラ O7 3歳男

(岡崎市 川島小児科水野医院)

病原性大腸菌 O1 VT(-) 3歳男
病原性大腸菌 O18 VT(-) 9歳男
病原性大腸菌 O18 VT(-)、カンピロバクター 10歳男
カンピロバクター 3歳女、6歳男

(岡崎市 にいのみ小児科)

カンピロバクター 2歳男

(岡崎市 とみた小児科)

胃腸炎が増加中です。

(知立市 宮谷クリニック)

マイコプラズマ肺炎 3歳女
病原大腸菌 O25 1歳女

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

嘔吐、下痢が増加

(西尾市 やすい小児科)

東三河地区

2歳男 サルモネラ O9

(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)

4歳男 血便キャンピロバクター

(豊橋市 富田小児科)

"かぜ"が目立つも重症例なし。

咳や鼻汁は長びいている児が多い。

(田原町 かわせ小児科)

1～3類感染症の発生状況 (愛知県)

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	一宮	67	男	11/2	11/2	11/8	O157 VT1(+) VT2(+)	症状あり 感染経路不明

全数把握の4類感染症の発生状況 (愛知県)

ツツガムシ病 1例

第43週(14年10月21日～10月27日)の4類感染症 (全国)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は引き続き増加を続けており、過去5年間の同時期に比べるとかなり多い。都道府県別では、定点当たり報告数が10を超えた県が佐賀県(14.6)、宮崎県(14.5)、大分県(12.1)、山口県(11.5)、鹿児島県(10.2)など5県となった。九州・山口地方以外では、愛媛県(8.5)、福井県(8.3)、新潟県(6.8)などで増加が見られる。他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいない。水痘は例年通り40週より上昇傾向にあり、都道府県別では福井県(2.8)からの報告が最も多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も34週より増加を続けている。マイコプラズマ肺炎は定点当たり報告数が0.24で、第38週より増加を続けており、都道府県別では山梨県(1.4)と秋田県(1.0)からの報告が多い。今週はクラミジア肺炎の報告が9例あり、第4、5、29週の10例に続いて多かったが、特に県別の集積は見られていない。無菌性髄膜炎、麻疹(成人麻疹を除く)は順調に減少を続けている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

今年は当たり年だったようでどこの庭の柿もよくなっていますが、筆者らのころの子供とちがって柿泥棒が出没しないものですから、いずれは目白やカラスの餌食になるのでしょうか。日陰では鶯の地鳴きが聞こえてきます。いつも貴重な情報を有難うございます。10月後半のまとめをお送りします。

- 1 名古屋市内：第一日赤有吉先生からはロタウイルス感染症が目立つようになり、喘息性気管支炎、感染に伴う気管支喘息発作、マイコプラズマ肺炎が多い、城北病院渡辺先生からは、最近急激に嘔吐下痢症増加、ロタウイルス、アデノウイルス陰性例が多い、地域的なものらしいがムンプス、水痘が流行、喘息性気管支炎でRSウイルス陽性例が少し、第二日赤岩佐先生からは入院患者で喘息が多い、千種区今枝先生からは最近突発疹をみない、感染性胃腸炎1 - 2例、三菱病院岩間先生からは溶連菌感染症、感冒性嘔吐症が多くて気管支喘息 + 気管支炎、気管支肺炎の入院目立つ、中京病院柴田先生からはとくに目立つ感染症はない、労災病院山田先生からは病原性大腸菌O1、O25、カンピロバクタ - 腸炎、エロモナス腸炎、サルモネラ腸炎が共に多くRSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、ウイルス感染後後気管支喘息発作、仮性クル - プの入院例と乳児の百日咳ありとのお手紙でした。
- 2 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、ムンプス、手足口病それぞれ散発中で4歳女兒の異型麻疹1例ありとのお手紙をいただきました。
- 3 三河地区：知立市近藤先生からは水痘、伝染性紅斑散発中で咳の長く続く感冒あり、碧南市永井先生からは園児主体に溶連菌感染症増加、伝染性紅斑が散発中、豊橋市からは手足口病とマイコプラズマ肺炎が目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙をいただきました。有難うございました。

2002 年 9 月 27 日号 (77 巻 39 号)

西ナイルウイルス：カナダ。9 月 19 日時点でカナダ当局の発表では 20 例 (疑似例 17、確定 3 例、死亡 1 例)

分布はケベック州とオンタリオ州、1 例は米合衆国旅行中に感染した模様

米国：CDC によれば 9 月 23 日時点で 1,963 例 (死亡 94 例)、32 州から報告され、鳥・人・蚊・馬などから 42 州で発見、当局は蚊対策を実施中

新生児破傷風対策：モロッコ。02 年 4 月、モロッコ当局は WHO、ユニセフの協力で新生児破傷風対策を開始

02 年 4 月の調査で保健施設での出生 50%、訓練された助産婦による出産 50%、新生児死亡 19 / 千出生、新生児破傷風 0.003 / 千出生で破傷風トキソイド接種の普及率は 2 回接種終了が 82% となっている。

インフルエンザ (02 年 9 月)。アルゼンチン：A (H3N2) 型、ブラジル：B 型、香港：A (H1N1、H3N2) 型と B 型の散発

9 月 20 日 ~ 26 日届出：コレラ。コンゴ、ナイジェリア、インド

2002 年 10 月 4 日号 (77 巻 40 号)

西ナイルウイルス：カナダ。9 月 30 日時点でカナダ当局の発表では 38 例 (疑似例 28、確定 10 例、死亡 1 例) ケベック州とオンタリオ州

1 例はオンタリオ州、1 例は米合衆国旅行中に感染、他は居住している地区で感染した模様

米国：CDC によれば 9 月 30 日時点で 2,405 例 (死亡 117 例)、32 州から報告され、鳥・人・蚊・馬などから 42 州で発見、当局は蚊対策を実施中

髄膜炎菌髄膜炎ワクチン：本年 2 月からワガドグ (ブルキナファソ) でそれまでなかった血清型の髄膜炎 (W135 型) 流行

アフリカ地区におけるワクチン接種が供給不足と高価格から普及の問題があり、緊急事態として WHO と関連機関が検討中

髄膜炎菌多糖類ワクチン。WHO の定期一斉接種 (予防接種拡大計画) を目的とした多糖類髄膜炎菌ワクチン使用指示書。現在アフリカを中心に血清型 A 型による大流行が 7 ~ 14 年毎に発生、最近では W135 型が流行

ワクチンの安全性は優秀であるが、年少児では免疫の持続にやや問題があるので、2 歳以上の定期一斉接種が望ましい。

9 月 27 日 ~ 10 月 3 日届出。コレラ。コンゴ、リベリア、ウガンダ、仏 (輸入例)

2002 年 10 月 11 日号 (77 巻 41 号)

黄熱：セネガル。ダカールのパスツール研で確認された例 12 例。住民の一斉ワクチン接種が 10 月 1 日から開始された。疫学調査が実施中

麻疹：チュニジア。20 年以上前から同国では 2 回法による定期麻疹ワクチン接種が普及、98 年 11 月から強化、接種率は 90% をこえて麻疹流行はほぼ消失していたが 02 年前半期に局地的な流行が発生した。年齢は 20 ~ 34 歳が最多、次いで 1 歳未満児。地域集積性あり。ワクチン未接種者、接種歴不明者が多い。現在ワクチン未接種者対策が検討されている。

インフルエンザワクチン：03 年南半球におけるワクチン推奨株

10 月 4 日 ~ 10 日届出：コレラ。ウガンダ。黄熱。セネガル

